

学校は外国、企業と連携

人生100年 大人こそ学び

将来の教育考える討論

札幌

将来の学習のあり方を考える「未来の学びフェス in 札幌」（実行委主催）が27、28の両日、札幌市東区の「エソハブ サッポロ」で開かれた。教育を巡るさまざまな課題について、2日間、学校長やIT企業の関係者ら約20人が登壇し、活発に意見を交わした。

（村上辰徳）

提言した。

27日は「教育とテクノロジー」をテーマに討論が行われた。北海道を教育最先端の地域にする方策として、札幌日大高の浅利剛之校長は「学校が単独で教育をする時代は終わった。外国や企業と連携し、新たな教育を生み出すべきだ」と

教育の未来について関係者が意見を交わした討論会（野沢俊介撮影）

このほか高校と地域をつなぐ「コイディネーター」が果たすべき役割や、小中学生に1人1台のパソコンを整備する政府の「GIGAスクール構想」などについても討論が行われた。

